

## 第 4 学年 学級活動指導案

### 1 活動名 「あいさつ運動に取り組もう」

### 2 活動の目標

- あいさつ運動に向かう過程で、学級の諸問題を解決して、よりよい活動とするために話し合う。
- あいさつ運動に友達と協力して取り組み、自分のよさを発揮して役割をやり遂げる。

### 3 児童の実態

#### (1) 話し合い活動について

4 月には、担任や学級代表が司会者となり、学級のルールや仕事分担、学級目標などを決める話し合い活動を行い、進め方などについて確認をした。

5 月になると、みんなの願いを実現させるための“会社”（希望制、人数・活動期間が自由な係活動）や学校行事に向けての実行委員会などが編制され、会社のメンバーや実行委員を中心に活動のめあてや取り組み方を話し合うようになった。

6 月からは、“会社のルール”や“班日記”、“クラスイベント”について、輪番で運営係（司会・副司会・書記）を編制して話し合ってきた。

このような経験を通して、子どもは、話し合いの進め方について理解してきている。

しかし、今までの話し合い活動で、意欲的に取り組む子どもとそうでない子どもに分かれ、なかなか自分の考えを発表できない子ども、友達の考えとかかわらせて発言できない子どもがいた。

そこで、私は、あらかじめ誰がどんな考えをもっているのかが分かるように意見一覧表を活用したり、話し合いの途中に個々で意見交換できるフリータイムを導入したりして、子ども同士がかかわり合える場を設定してきた。また、意見交換や意見の折り合いをつけるための時間を十分に確保し、学級や活動の問題点をじっくりと話し合わせるために、今までは話し合いの前段で行われていた『始めの言葉』『運営係のあいさつ』『提案理由の確認』等は、話し合いの前までに終わらせるようにした。

#### (2) あいさつ運動について

あいさつについては、当校の生活指導の重点となっている。特に気持ちよく 1 日のスタートが切れるようにと、朝のあいさつに力を入れて取り組んでいる。そのため、各学級でも分担をして、学期に 1 回、全校に向けてのあいさつ運動を企画、運営している。

1 学期前半のあいさつ運動では、前学年までの経験を基に話し合い、生活班であいさつグッズ（看板、たすき、はちまきなど）を作り、班ごとに立つ場所を決め、全校に「おはよう」を呼び掛けた。子どもは、班で協力してあいさつグッズを作り、大きな声を出す子どもを中心にあいさつ運動に取り組んだ。

活動を終えての感想では、「あいさつをしても返してくれない人がいた。」「わたしたちのクラスの中にもちゃんとあいさつしていない人がいた。」といった問題点が挙げられた。なかには、「全校のみんなのあいさつをもっとよくしたい。」や「自分たちがしっかりとあいさつしなければいけない。」という思いをもっている子どもも数名いた。

### 4 指導の構想

私は、学級活動で子どもに『問題解決力』を身に付けさせる。問題解決力とは、学級や活動の諸問題を、友達とかかわり合いながら思考力や判断力を働かせ、解決策を考えて実践する力である。

そのために話し合い活動では、子どもが「学級の問題点を解決するために、話し合いで新たな価値に気づき、それをとらえて自分の考えを再構築し、よりよい活動を創り上げる姿」になることを目指す。新たな価値とは、話し合いで明確になった問題点を解決するために、子どもが思考・判断する手掛かりとなるものである。

話し合いの中で、子どもは、友達の異なる考えにふれ、自分では気付かなかった学級の実態や問題点を知り、その解決策を探ろうとする。その場面で、教師が子どもに「それらの活動が、今の学級や自分にとって、どんな意味があるのか」（新たな価値）と問う。その結果、話し合いを通して、子どもは『活動を通して大切にしなければならないこと』を考えさせ、よりよい活動づくりへとつなげていく。

これまでの話し合い活動は、活動のめあてや提案理由を基に、自分の考えに理由付けをして話し合い、その活動のほとんどを子どもに委ねて進める実践が主流であった。しかし、45分間を子どもだけに任せているのは、子どもが問題解決に向かって思考力や判断力を働かせ、自分の考えを再構築することは難しい。また、集団決定の場面で、子どもの興味・関心や好き嫌いなどが大きく影響してしまい、学級として活動を行うときに何が大切なのかを考えずに進んでしまうことが多かった。

そこで、私は、限られた授業時間の中で、子どもに思考力や判断力を身に付けさせるため、教師の意図的、段階的な指導・支援を行う。（詳細は、本時の計画の中で述べる。）

## 5 活動計画・本時までの活動の実際(全3時間 本時2/3)

| 時間      | 活動の流れ          | 活動内容  |
|---------|----------------|---|
| 1       | 問題発見           | <p>“一人一人が自分の願いや思いをもつ”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回のあいさつ運動や今のあいさつの様子から、今回は、どんなあいさつ運動をするかを考える。</li> <li>＊ 夏休み明けのこの時期をとらえて、気持ちよく学校生活をスタートさせるために、学級としてできることは何かを子どもに考えさせ、あいさつ運動を行うことに決めた。そこで、子どもに1学期前半のあいさつ運動を振り返らせた。すると、「生活班で協力してできた。」「友達とふざけている人がいた。」などの生活班で行うことのよさと問題点が表出してきた。また、あいさつについてのアンケートを行うと、「全校のあいさつはよくなっていない。」「学級としてはいいけれど自分はあまりできていない。」と書いている子どもが多く見られた。</li> </ul>                    |
|         | 目的の共有<br>議題の選定 | <p>“学級のめあてを明確にして、互いの考えをもとに活動内容を決める”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級全体であいさつ運動のめあてを決める。<br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>※めあて「明るく元気に」「楽しく笑顔で」「自分から進んで」を決める。</li> </ul> </li> <li>・ あいさつ運動の内容（時間やグッズ、グループのつくり方など）を決める。</li> </ul> <p>“一人一人の考えが出し合えるような議題を選ぶ”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいさつ運動のやり方について、前回の反省を踏まえ、今の学級の実態から、話し合いの柱を「あいさつ運動のやり方は、生活班か個人か？」とする。</li> </ul> |
| 朝会<br>等 | 話し合いの<br>準備    | <p>“一人一人が話し合いに見通しをもつ”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動内容で決まっていることを共通理解して、話し合いの準備をする。<br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>＊ あいさつグッズを生活班で考えて作る。</li> <li>＊ あいさつがしっかりとできた人に渡すあいさつカードを用意する。など</li> </ul> </li> <li>・ 話し合いの柱を受けて意見カードを書く。その意見をまとめた意見一覧表を基に、さらに自分の考えを書いてまとめる。</li> </ul>   |

|         |      |  |
|---------|------|--|
| 1<br>本時 | 問題解決 | “互いの考えを交流させて学級や活動の問題点を解決する”<br>・活動を進めるうえでの問題点を解決するための話し合いを行う。              |
| 1       | 実 践  | “友達と協力をして準備を進める”<br>・準備中などに問題点や共通理解が必要な事柄が表出てきた場合には、すぐに『とっさの話し合い』を行って解決する。 |
| 朝       |      | “一人一人が責任をもってあいさつ運動を実施する”<br>・学級代表を中心に、一人一人が自分の仕事に取り組む。                     |
| 終会      | 振り返り | “活動全体を振り返り、次の活動への意欲をもつ”<br>・アンケートや作文を基に本活動の成果を明らかにする。                      |

## 6 本時の計画(2/4時)

### (1) 主張

子どもは、あいさつ運動で、「どうすれば全校のみんながしっかりとあいさつするようになるのか。」を中心に考えている。しかし、まずは自分たちのあいさつをもっとよくしなければならぬことが重要であり、そのことに気付いている子どもは少ない。

本時では、子どもに自分たちのあいさつの実態を、発言やアンケート結果などからとらえさせ、あいさつ運動が自分たちのあいさつをよくするために大切な活動であることも理解させる。その上で、あいさつ運動のやり方「生活班か個人か」について、「生活班は、友達と助け合えばしっかりとあいさつができる。」と「個人は、友達に頼らないので一人一人のあいさつをよくすることになる。」という新たな価値を子どもに気付かせる。そして、学級の実態から問題点を解決するためにはどちらのやり方がいいのか、今の学級にとってよりよい方法はどちらかを話し合わせる。その結果、あいさつ運動で大切にすること「全校のみんなのあいさつをよくするには、自分たちもあいさつがしっかりとできなければならない。」を理解させる。

### (2) 議題名 あいさつ運動のやり方を決めよう

〈提案理由〉 夏休みを終え、1学期の後半がスタートした。この時期をとらえ、気持ちよく学校生活を送れるよう、学級であいさつ運動に取り組む。5月に行ったあいさつ運動の反省を基にそのやり方を決める。

〈話し合いの柱〉 あいさつ運動のやり方は、生活班か個人か？

### (3) ねらい

自分たちのあいさつの実態や問題点を明らかにした上で、その問題点を解決するために、どのようなやり方であいさつ運動に取り組むかを定めることができる。

### (4) 指導の構想

#### ① 本時で目指す子どもの姿

◎話し合いを通して、新たな価値をとらえ、それを基に自分の考えを再構築している。

- ・学級の実態を理解し、それぞれのやり方の新たな価値をとらえている子ども
- ・新たな価値を基に、問題点を解決するために、どちらの活動がいいのかを考え、書いたり発言したりしている子ども

## ② 目指す姿を実現するための手立て

手立て1： 全員の意見カードをまとめた意見一覧表を配付して、一人一人に話合いのポイントを用意一覧表に書き込ませる。

本時の前に、活動のめあてや自分なりの願いを基に考えさせ、意見カードを書かせる。

意見カードに書かれた一人一人の考えを意見一覧表にまとめ、子どもに提示する。そして、その一覧表を見ながら友達の意見に対して自分の考えを書かせたり、二つのやり方のよさと問題点を見付けさせて、それを話合いのポイントとして整理させたりする。そうすることで、子どもは、学級の実態や問題点に気付いたり、意見交換の視点を明らかにしたりして、話合いに見通しをもつ。

また、そこで考えて意見一覧表に書いたことを、話合いの始めで発表させる。

手立て2： 「自分たちのあいさつをもっとよくするために、どちらのやり方がいいのか」と問い、二つのやり方の新たな価値を考えさせる。その価値を基に「今の学級にとっては、どちらのやり方がいいのか」と問い、学級の実態や問題点を明らかにし、それらが解決できるやり方考えさせる。

子どもの発言から、自分たちのあいさつについて考えているものを押さえ、さらに、学級の“あいさつアンケート”の結果を示す。そして、子どもに「今の学級にとっては……」と問うことで、学級の実態や問題点を明らかにさせる。その後、問題を解決するために望ましいやり方を話し合うなかで、あいさつ運動で大切にしなければならない「全校のみんなのあいさつをよくするには、自分たちもあいさつがしっかりとできなければならない。」を理解させる。

この場面では、思考力・判断力を高めるため、子どもの話合いを基に、教師が意図的に新たな価値を考えさせ、もう一度どちらの活動がいいのかを決めさせる。

手立て3： 二つのやり方の価値をとらえ、納得と説得を意識させた“フリータイム”を取り、その後、学級で取り組むやり方を集団決定する。

集団決定の前にフリータイムを取る。ここでは、「誰に対して何を話して、説得したり納得したりすればいいのか」を全体で確認してから取り組ませる。そこで、フリータイムの前に、自分が説得・納得したいこと、迷っていることを数名発表させて、意見交換のポイントを絞る。

フリータイム後には、子どもが誰と話をし、そこで何をどのように考えたのかを報告し合うようにする。その後、一人一人が自分の考えをさらに深めていけるように意見交換をしてから集団決定の場面へと進める。

## (5) 授業の評価

本時では、行動観察と子どもが話合いの途中と振り返りで書く話合いカードの記述から様子を見取り、評価を行う。(個別の評価は、今までのカードと比較して判断する。)

・問題点を解決する手掛かりとなる新たな価値をとらえ、それを基に「今の学級にとっては、どちらのやり方がいいのか」について、自分の考えを書いたり、発言したりできたか。

(6) 展 開

| 活動の流れ  | 子どもの活動・予想される反応  | 教師の意図・手立て□評価方法  |
|--|---|---|
| <p>1 司会のあいさつ</p> <p>2 先生の話</p> <p>3 話し合い</p> <p>自分と友達の考えを確かめる</p>          | <p>司会：これから第7回キラキラスターうちゅう会を始めます。</p> <p>……先生の話です。</p> <p>司会：二つのやり方のよいところと心配なところを発表してください。</p> <p>△班だと友達とふざける人がある。</p> <p>△個人だとあいさつをしない人がある。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>意見一覧表を準備させて、自分の考えを確かめさせる。</li> <li>活動のめあてを確認させる。</li> <li>一覧表や話し合いカードを基に自分の考えを発表させ、どちらの活動にもよさと心配なことがあることを押さえる。</li> </ul>  |
| <p>教師：「自分たちのあいさつをもっとよくするため、どちらのやり方がいいですか？」と問う。</p>                         |   |   |
| <p>新たな価値に気付く</p>   | <p>○生活班は、助け合ってできる。大きな声を出せない子も友達となら出せるようになる。</p> <p>○個人で友達にたよらずに自分でやる方が、その人のためになる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>前回の反省、活動のめあて、あいさつアンケートの結果を提示して、新たな価値に気付かせるために助言する。</li> </ul>  |
| <p>教師：「今の学級にとっては、どちらのやり方がいいのか？」と問う。</p>                                    |   |   |
| <p>新たな価値をとらえて考えを述べる</p> <p>(20分)</p>                                       | <p>司会：今の学級のことを考えて、どちらの活動がよいかを、もう一度考えてください。(3分間)</p> <p>(・自分の考えを見直して、もう一度よく考える。)</p> <p>司会：「今の学級にとって」を考えると、どちらの活動がよいかを発表してください。</p> <p>○今は～なので、……の方がよい。</p> <p>○あいさつがよくするには、……がよい。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな価値をとらえさせ、自分の考えを再構築させる。(書くことも認めて、自分の考えを整理させる。)</li> <li>今までの自分の立場にとらわれずに発表させる。</li> <li>□問題点を解決する手掛かりとなる新たな価値をとらえ、それを基に「今の学級にとっては…」について、自分の考えを書いたり、発言したりできたか。【カード・観察】</li> </ul> |
| <p>司会：フリータイムにします。</p> <p>教師：今の自分の立場を確認します。説得・納得したいことや迷っていることを発表してください。</p> |   |   |
| <p>・友達と個別に議論したり相談したり、友達の考えを納得し、友達を説得したりするために、席を離れて自由に意見交換をする。</p>          |   |   |
| <p>全員納得か多数決で決める</p> <p>(15分)</p>   | <p>(5分間)</p> <p>司会：多数決を前に最後の意見交換をします。フリータイムで話し合われたことなどを発表してください。</p> <p>○私は、…と聞いて考えが変わりました。</p> <p>司会：全員が納得したので…にします。</p> <p>司会：全員が納得していないので多数決にします。</p> <p>司会：あいさつ運動のやり方は…に決まりました。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが変わった子や迷いがなくなった子に発表させて、考えの深まりを全体に知らせる。</li> <li>終了時刻の10分前には集団決定に入る。</li> <li>全員が納得しなければ多数決を採る。</li> </ul>   |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p>4 話合いの<br/>振り返り</p> <p>自己評価を基に<br/>シェアリングをする</p> <p>(5分)</p> | <p>司会：話合いを振り返ってカードを書きましょう。(3分間)</p> <p>○全校のあいさつをよくするには、…が大切だと分かった。だから、…をがんばりたい。</p> <p>※時間があれば<br/>〈司会：“光る言葉”を発表してください。(副司会が発表する。〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時でどんなことを学んだのかを書くように個別に助言して、一人一人のがんばりを賞賛する。</li> <li>※“光る言葉”(話合いの流れを変えたり、発言の仕方に説得力があったりした発表)</li> <li>・カードの振り返りの中から、教師がいくつか紹介し、全体でシェアリングを行う。</li> </ul> |
| <p>5 先生の話<br/>(終わりの言葉)</p> <p>(5分)</p>                          | <p>教師・話合いのポイントを子どもの振り返りカードを基に話をする。</p>   |   |